

富良野市新庁舎建設工事評価選定委員会
審査結果及び講評

令和元年 12 月

富良野市新庁舎建設工事評価選定委員会

1. 富良野市新庁舎建設工事評価選定委員会

富良野市新庁舎建設工事評価選定委員会（以下、選定委員会）を設置し、公募型プロポーザル方式による新庁舎建設工事の優先交渉権者選定に係る審査を行った。

(1) 選定委員会委員

職名	氏名	所属・役職
委員長	森 傑	北海道大学大学院工学研究院建築都市空間デザイン部門 教授
副委員長	影山 友規	一般財団法人北海道建設技術センター 市町村支援部長
委員	石井 隆	富良野市 副市長
委員	近内 栄一	富良野市 教育長
委員	稲葉 武則	富良野市 総務部長
委員	小野 豊	富良野市 建設水道部長

(2) 選定委員会開催状況

区分	日程	概要
第1回 選定委員会	令和元年 8月23日	・委員長、副委員長の選出 ・募集要項の決定 ・優先交渉権者決定基準の決定 (優先交渉権者の決定方法、実績評価項目及び評価基準など)
第2回 選定委員会	令和元年 9月20日	・参加資格審査 ・優先交渉権者決定基準の決定(技術提案の評価項目及び評価基準)
第3回 選定委員会	令和元年 11月5日	・VE提案※ヒアリング ・VE提案の採否審査
第4回 選定委員会	令和元年 11月29日	・技術提案ヒアリング ・技術提案の審査 ・優先交渉権者の選定

※VE提案：「品質を下げないでコストを低減する」提案や「コストを上げないで品質を向上させる」提案

2. 公募スケジュール

区分	実施内容	実施期間及び期日
公示	募集要項等配布	令和元年8月23日
参加資格審査	質疑受付	令和元年8月23日～9月2日
	質疑回答期限	令和元年9月6日
	参加表明書受付	令和元年9月6日～9月17日
	参加資格審査結果発表	令和元年9月24日
VE審査	資料配付（基本設計書、要求水準等）	令和元年9月24日
	質疑受付	令和元年9月24日～10月7日
	質疑回答	令和元年10月11日
	VE提案書提出期間	令和元年10月11日～10月28日
	VE提案ヒアリング	令和元年11月5日
	VE提案採否通知	令和元年11月8日
技術提案審査	技術提案書提出期間	令和元年11月8日～11月25日
	技術提案ヒアリング	令和元年11月29日
選考結果通知	最終審査結果発表	令和元年12月2日

3. 優先交渉権者決定基準

(1) 優先交渉権者の決定方法

優先交渉権者の選定にあたっては、参加申込みのあった者のうち参加要件を満たす者（以下、参加資格審査通過者）に対し、VE提案の提出を求めその採否を審査、採用後に技術提案の提出を求め、技術提案審査により、評価点が最も高い者を優先交渉権者として選定する2段階審査選考方式を採用した。評価は、業務実績及び技術提案項目の評価点（技術評価点）と価格項目の評価点（価格評価点）を合計した評価点（総合評価点）によることとした。

選定委員会は優先交渉権者の選定結果を市に報告、これを踏まえて市が優先交渉権者を決定することとした。

(2) 評価事項に対する配点

評価区分・評価項目				配点		
技術評価点	実績評価	設計技術協力業務	・設計技術協力管理技術者の実績 ・設計技術協力主任技術者（総合）の実績 ・設計技術協力主任技術者（構造）の実績 ・設計技術協力主任技術者（電気設備）の実績 ・主任技術者（機械設備）の実績	20	40	120
		建設業務	・総括責任者の実績 ・監理技術者（建築）の実績 ・監理技術者（電気設備）の実績 ・監理技術者（機械設備）の実績	20		
技術提案評価	技術提案評価	業務全般	・業務全体の実施方法 ・全体工程管理 ・企業姿勢、体制	10	80	
		設計技術協力業務	・技術協力業務の実施方法 ・環境を考慮した庁舎を実現するための具体的な方法 ・コストを抑えた庁舎を実現するための具体的な方法	16		
		建設業務	・施工計画 ・施工中の対策 ・設備機器の性能発揮	14		
		地域経済への貢献	・地元雇用等による地域経済への貢献 ・市内企業への発注等による地域経済への貢献 ・地元資材店の活用による地域経済への貢献 ・市内企業との連携等による地域経済への貢献	40		
価格評価点			・見積価格による評価点 ・積算能力評価点	20		
総合評価点				140		

(3) 評価事項の評価方法

① 技術評価点

【実績評価】

参加表明書提出時に提出された配置技術者の実績について、配置技術者毎に設定した実績評価項目の評価基準に基づき評価を行った。

【技術提案評価】

提出された技術提案書及びヒアリングにより、各評価項目について相対評価を行い、以下に示す評価に該当する点数により評価を行った。

評価	評価点 (配点×掛け率)
大変優れている	配点 × 1.00
優れている	配点 × 0.75
普通	配点 × 0.50
やや不十分	配点 × 0.10

②価格評価

提出された見積価格に従い、見積価格を次式に従って換算した。

(ただし、有効桁数は小数点以下第2位とし、小数点以下第3位を四捨五入する。)

ア. 市が算出した最低基準価格以上、市が予定する参考事業費以下で見積を提出したものの参加者の価格評価点 (0.00~20.00)

$$= 10 \times [(\text{市が予定する参考事業費} - \text{見積価格}) / (\text{市が予定する参考事業費} - \text{市が算出する最低基準価格})] + 10 \text{ 点 (積算能力評価点)}$$

イ. 市が算出した参考事業費に対する最低基準価格以下で見積を提出したものの参加者の価格評価点 = 一律 20 点

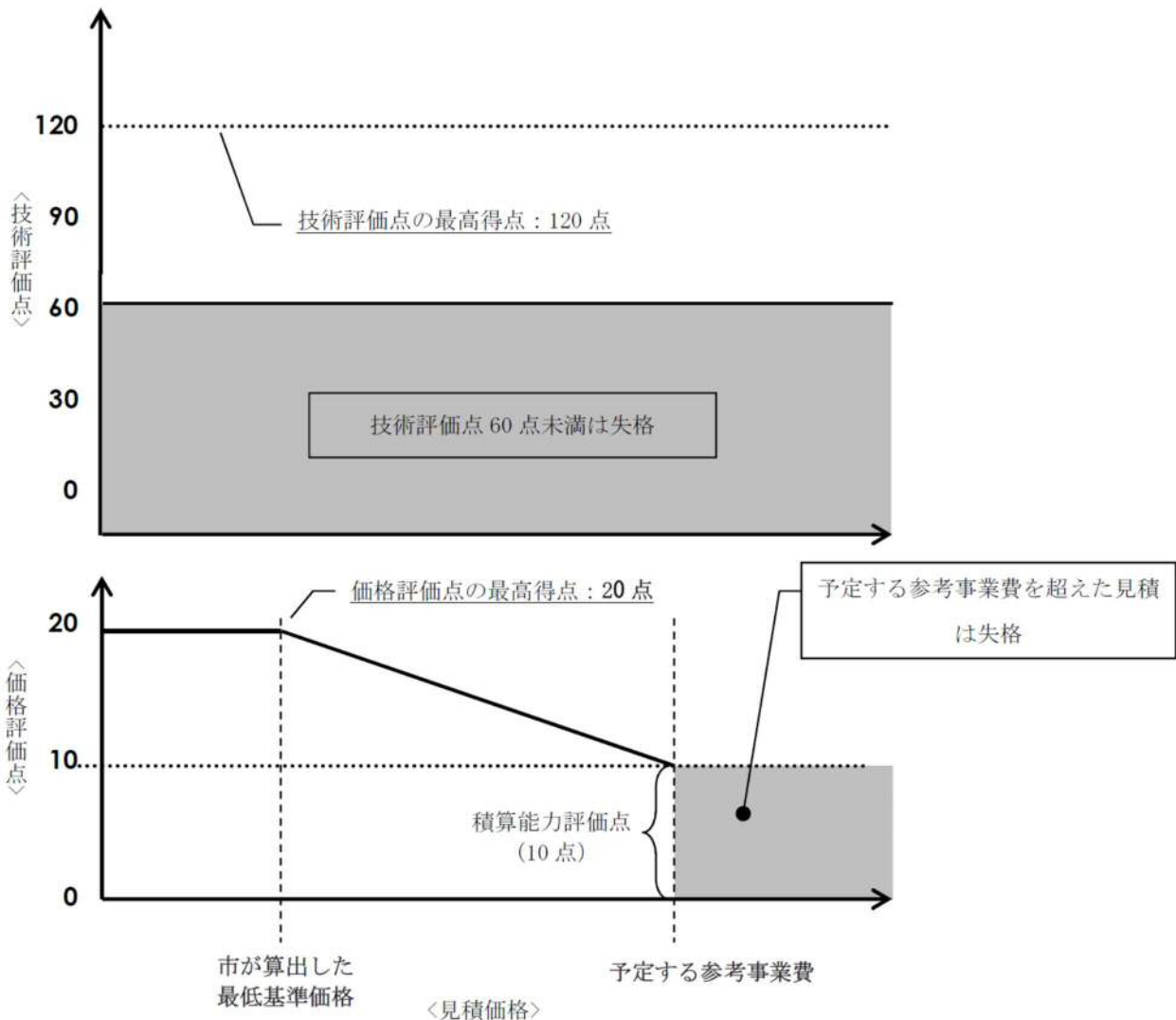


図 技術評価点及び価格評価点のイメージ

4. 審査経緯

(1) 参加資格審査

令和元年9月20日、第2回選定委員会を開催し、提出された参加資格確認申請書の書類審査を実施した結果、申請書の提出のあった2者について、ともに参加資格を満たしていることを確認した。

(2) VE提案審査

令和元年11月5日、第3回選定委員会を開催し、VE提案書を提出した2者に対し、ヒアリングを行い、VE提案採否の審議を行った。

(3) 技術提案審査

令和元年11月29日、第4回選定委員会を開催し、技術提案書を提出した2者に対し、ヒアリングを行い、技術提案の審査を行った。

審査結果は、以下のとおりである。

評価区分・評価項目・配点					大成・北弘・弘友 異業種特定建設工事 共同企業体			清水・北海電工・池田 異業種特定建設工事 共同企業体		
技術評価点	実績評価	設計技術協力業務	<ul style="list-style-type: none"> 設計技術協力管理技術者の実績 設計技術協力主任技術者(総合)の実績 設計技術協力主任技術者(構造)の実績 設計技術協力主任技術者(電気設備)の実績 設計技術協力主任技術者(機械設備)の実績 	20	17.00	31.00	79.08	15.00	25.00	80.17
		建設業務	<ul style="list-style-type: none"> 総括責任者の実績 監理技術者(建築)の実績 監理技術者(電気設備)の実績 監理技術者(機械設備)の実績 	20	14.00		10.00			
技術提案評価		業務全般	<ul style="list-style-type: none"> 業務全体の実施方法 全体工程管理 企業姿勢、体制 	10	6.25	48.08		6.58	55.17	
		設計技術協力業務	<ul style="list-style-type: none"> 技術協力業務の実施方法 環境を考慮した庁舎を実現するための具体的な方法 コストを抑えた庁舎を実現するための具体的な方法 	16	10.75		9.67			
		建設業務	<ul style="list-style-type: none"> 施工計画 施工中の対策 設備機器の性能発揮 	14	9.00		8.92			
		地域経済への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地元雇用等による地域経済への貢献 市内企業への発注等による地域経済への貢献 地元資材店の活用による地域経済への貢献 市内企業との連携等による地域経済への貢献 	40	22.08		30.00			
価格評価点			<ul style="list-style-type: none"> 見積価格による評価点 積算能力評価点 	20		20.00		12.86		
総合評価点				140		99.08		93.03		

5. 優先交渉権者の選定

優先交渉権者決定基準に基づき、総合評価点が最も高い者を優先交渉権者、次いで高い者を次点者として選定し、以下のとおり市に報告した。

優先交渉権者	名 称	大成・北弘・弘友異業種特定建設工事共同企業体（乙型 J V） 乙型 J V 代表：大成建設株式会社札幌支店
	構成員	大成・北菱・軽米建築工事特定建設工事共同企業体（甲型 J V） 甲型 J V 代表：大成建設株式会社札幌支店 北弘・東邦電気設備工事特定建設工事共同企業体（甲型 J V） 甲型 J V 代表：株式会社北弘電社旭川支店 弘友・玉手機械設備工事特定建設工事共同企業体（甲型 J V） 甲型 J V 代表：弘友設備工業株式会社

次点者	名 称	清水・北海電工・池田異業種特定建設工事共同企業体（乙型 J V）
-----	-----	----------------------------------

6. 審査講評

富良野市では、新庁舎の建設に際し、基本的要求水準を満たすより良い新庁舎を予算範囲内で期日までに確実に施工することが必要であることから、実施設計段階から施工業者の優れた技術と経験を取り入れることにより、コスト縮減や工期短縮が見込める「技術協力交渉方式（E C I 方式）」を採用し、建設工事施工業者の優先交渉権者を公募型プロポーザルにより選定することとした。

優先交渉権者の選定は、学識経験者 2 名と庁内委員 4 名で構成する選定委員会において実施、選定方法は、V E 提案審査及びその採否を踏まえた技術提案審査により、評価点が最も高い者を優先交渉権者として選定する 2 段階審査選考方式を採用した。

評価は、価格と価格以外の要素を総合的に評価することとし、価格要素については、基本設計及び要求水準書に基づき、品質を確保しつつコストを縮減するための V E 提案を求め、その採否を踏まえた見積書の提出を求めた。価格以外の要素については、設計技術協力業務や建設業務の配置技術者の実績を評価するとともに、本業務全体の実施方法や工程管理、設計技術協力業務の実施方法や環境・コスト面での提案、建設業務の施工計画などの提案、雇用や資材調達など地元経済への貢献に対する技術提案を求めた。

参加資格審査通過者 2 者から提出された V E 提案、技術提案及び見積書については、いずれも本事業や設計者の意図を十分に認識し、設計内容について深い理解度を持って十分に検討がなされており、提案者の知識、経験、技術の高さが活かされた特色のある内容であったと受け止めている。とりわけ、優先交渉権者は、技術評価のうち配置技術者の実績や設計技術協力業務への取組、価格評価において高い評価を得た。

今後は、発注者、設計者、優先交渉権者の 3 者で協働し、本プロポーザルにおいて提案された技術提案及び V E 提案に留まることなく、更なる技術的及び生産性向上に効果的な提案がなされることを期待する。

終わりに、本プロポーザルの関係者の皆様及び真摯にご提案いただきました皆様には、心から感謝し敬意を表するとともに、本事業の成功を心より祈念する。

富良野市新庁舎建設工事評価選定委員会

委員長（北海道大学大学院工学研究院教授） 森 傑